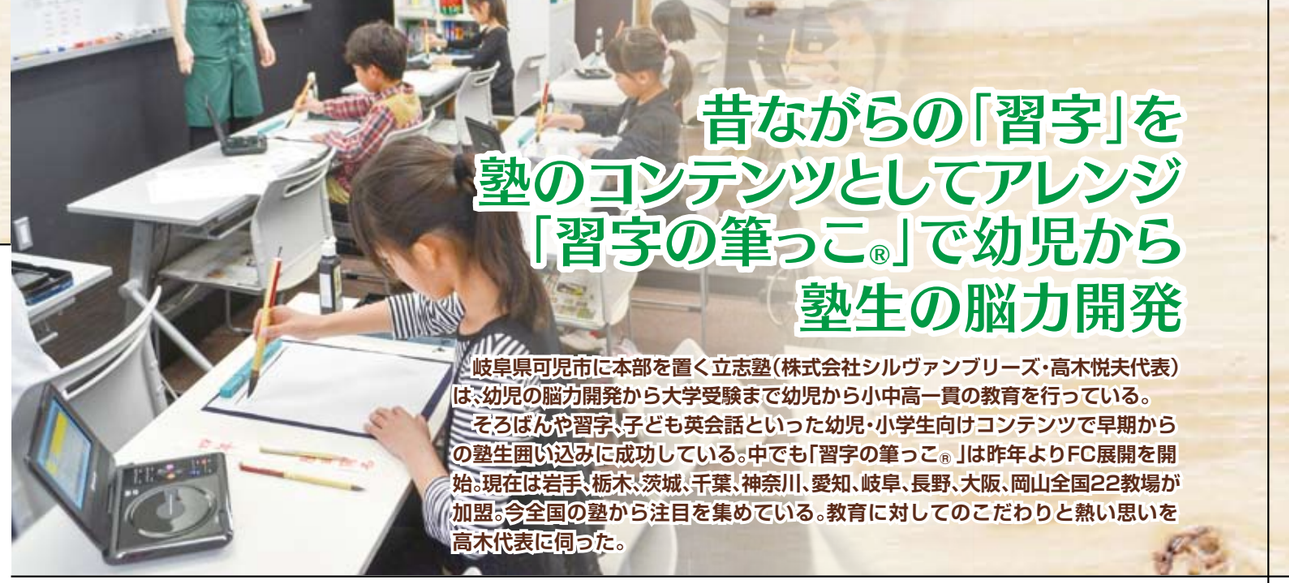

昔ながらの「習字」を塾のコンテンツとしてアレンジ「習字の筆っこ®」で幼児から塾生の脳力開発

岐阜県可児市に本部を置く立志塾（株式会社シルヴァンブリーズ・高木悦夫代表）は、幼児の脳力開発から大学受験まで幼児から小中高一貫の教育を行っている。

そろばんや習字、子ども英会話といった幼児・小学生向けコンテンツで早期からの塾生囲い込みに成功している。中でも「習字の筆っこ®」は昨年よりFC展開を開始。現在は岩手、栃木、茨城、千葉、神奈川、愛知、岐阜、長野、大阪、岡山全国22教場が加盟。今全国の塾から注目を集めている。教育に対してのこだわりと熱い思いを高木代表に伺った。

塾への入口として「習い事」に目を付けた

岐阜県加茂郡白川町で創業した立志塾が同県可児市にステージを移したのは8年前。当初は、輸送用のコンテナボックスを再利用した賃貸物件を教室にしてのスタートだった。

「コンテナでもおしゃれに格好良くやっていこうと様々な工夫を凝らしましたが生徒が来ず、集客に苦戦しました。あれこれ工夫をしても市場から見たらただのコンテナだったんです」と高木代表が当時のことを振り返る。転機は代表の奥様が話した「若いお母さん方の関心は〝塾〟ではなくて〝習い事〟との言葉だった。すぐに「速聴」を導入したところ反応があり、その後、そろばんを導入しようと決めた。そろばんは代表が自身の子どもにもさせたいと思っていた習い事だったためだ。

ノウハウがないため、開講までは手探り状態。そろばん担当者とパート従業員で指導システムを構築していった。校舎移転のタイミングでそろばん開講の告知をしたところ28名がすぐに集まったという。

その28名が塾の方にも流れるようになり、習い事を入口とした入塾への流れが確立していった。現在、そろばんには240名、2年前に導入した子ども英会話にも230名の子ども達が通っている。同塾のキラーコンテンツとなりつつある「習字の筆っこ®」も現在100名近い生徒が通っている。そろばんと英会話で構築した組織運営の流れや授業スタイルを基本としている。

中小塾にとって塾名での集客は難しいため、やはりコンテンツが命となる。無名の塾はコンテンツで集客するしかないのだが、新しいものを無名の塾が勧めても売れないというジレンマもある。その点、そろばんや習字は誰でも知っているもので説明不要。文化であり、古くからの教育であり、文部科学省のお墨付きまであるという安心安全コンテンツだ。

通いたくなるような工夫は必要

古くからあるコンテンツ故、「ここに通いたい！」と思わせる工夫は必要だ。「字が上達する、礼儀が身に付く」というただ漠然としたイメージの習字のメリットも、習字の動作一つ一つを分析した上で具体的に挙げ、ロゴやキャラクターといったパッケージングにも力を入れる。これまでの書道教室と差別化することも大切だ。

事実、「習字の筆っこ®」の授業はテキストを使いながらの一斉指導や各席で映像を見ながらの練習など、これまでの書道教室とは一線を画している。これにより他の子の指導中の待ち時間を減らし、少ない講師で一度に多くの生徒を指導することが可能になった。また、「ゆっくり書く」といった抽象的な表現を止め「一本の線を三秒で書く」と具体的に言い換えるなど、人によって差が出ないような授業デザインの標準化にも力を入れる。伝統を守りながらも新しい技術を取り入れることで、他塾では真似できない独自のコンテンツとなっている。

グローバル化が叫ばれている中で、日本に習字やそろばんが未だに残っているということはそれが日本人に合っているということだろう。単に字の上達や計算力の向上だけでなく、集中力の向上や美的感覚形成へも繋がる。そもそも集中とは何か？

習字やそろばんは集中なしにはできないため、「集中する」ことを幼少の頃に身体で覚えることになる。高木代表は「グローバル化には感性がある人たちこそ順応できる」との持論を持っており、「日本人としてのアイデンティティーの教育を幼少期に行うことはとても良いことで、これは大人になってからでは遅い。その頃に、理屈ではなく、言葉にならない感情・感覚、またある種の理不尽さをたくさん経験し、それをストックした数が多ければ多いほど後に伸びていく。幼稚園から小学生までの間の多感な時期に、感覚・感性の琴線にたくさん触れるようなプラットホームになりたい、そういうことを発信できる場になりたい。習字やそろばんは日本の原点的な教育だ」と話す。

習い事から入塾へと繋げる努力も

こういった高木代表の考えは各種イベントや三者面談、塾報を通じて保護者へ知らせている。特に塾報は社内の考えを整理し見直す役割も持つため、とても重要なツールになっているという。塾報の巻頭には大学受験科を配置するのが定番で、それにより大学受験まで安心して通えるということを保護者に意識させているのだ。また、小学生で算数・国語を受講している子ども達には全員に二者面談や三者面談を実施。ここで保護者面談を行うのと行わないのではその後の中学部への継続率が断然違ってくるのだとか。

現在、同社では「習字の筆っこ®」を全国に展開すべくパートナー企業を募集している。FCでやみくもに広げるつもりはなく、あくまでも同社の理念に共感し、共有してくれる「同志」を募っている。9月には、小学校入学を控え需要が顕在化する年長児に対し、硬筆コース開講も予定している。「習字の筆っこ®」の授業の様子は同社のWEBサイトで見ることができるので、興味のある方は一度ご覧になっていただきたい。

http://partner.fudecco.com/

「習字の筆っこ®」の授業風景をぜひご覧ください

基本データ

設立　1999年4月
指導形態
【幼児部】幼児～小2　ジーニアス速算教室
【小学部】小1～小6　本科個別指導・立志速算教室・習字の筆っこ®
※そろばんと筆っこは年少～
【中学部】中1～中3　集団指導・個別指導
【高校部】高1～高3　集団指導・個別指導・市進予備校・Z会
【アン・イングリッシュクラブ】年少～中3
子供英会話教室
指導対象　年少～高3
教場数　5
生徒数　650

立志キッズエデュケーショナルグループ
岐阜県可児市
高木悦夫
立志塾 代表